

第4回「これからの図書館のあり方について」懇話会議事録

- 1 日時 平成23年3月14日(水) 10時～12時
- 2 場所 福岡市総合図書館 3階第2会議室
- 3 出席者 委員：高橋会長，田坂大藏，西谷郁，片岡貞子，山本富美江，音藤幸子，
三谷直也，田中久美（計8名）
図書館：中沢館長，田中部長，大串運営課長，湊図書サービス課長他
傍聴者：2名

(会長)

前回の続きということで、委員の皆様のご意見をお願いいたします。

(委員)

利用者のマナー向上ということで、自分なりにチラシを作ってみました。文字だけでなく、分かりやすい簡単な絵を使って視覚に訴えるような工夫をして、子どもにも分かるようなビジュアル表現にしてみました。

図書カードを作る際にチラシを渡したり、「としょかんニュース」に掲載したり、ポスターにして館内に掲示し、マナーアップ向上をしていけば良いと思います。

(図書館)

館内のマナー向上の貼り紙の状況ですが、携帯電話の使用禁止や飲食の禁止などを文字だけの注意書きを多く貼っており、見た目にはあまり良くない状況になっています。

また、貸出レシートにマナーを守ってもらうように印字しております。こども図書館では、「本の墓場」というコーナーを設け、らくがきやひどく破られたりした本などを展示しておりますが、委員のご意見を参考に、マナーアップ向上に努めてまいります。

(委員)

乳幼児の親子がいつも利用できる遊び場「子どもプラザ」が、市内には14箇所あります。ここにはスタッフが選んだおもちゃや絵本が置いてあり、図書館と違って子どもが大きな声を出しても気兼ねしなくて良いし、0～3歳ぐらいまでの子どもが利用するには、大変便利だと思いますが、ここには絵本や育児に関する本が数十冊置いてあるだけで、貸出はされていません。

団体貸出制度のようにして、プラザ内で貸出や返却が出来るようになれば良いと思いました。

(図書館)

こども未来局が所管する「子どもプラザ」は市内に14箇所設置し、運営は子育て支援に実績のあるボランティア団体やNPO法人に委託しております。子ども達は走り回りますし、スペース等の問題もあるため、本の冊数はあまり置かれていないと思いますが、各プラザでは絵本の読み聞かせやおはなし会が実施されております。

(委員)

団体貸出で公民館で55箇所、集会所で47箇所の文庫があることはわかりましたが、近くの公民館で文庫活動がされていることを知らなかったり、どの公民館でいつ文庫活動がされているか知らない人も多いと思いますので、広報活動をもっとして欲しいと思いました。

(図書館)

福岡市子ども読書活動推進計画の改定にともない、地域文庫マップを来年度、作成するようにしております。また、文庫団体からも広報の要望がっておりますので、来年度には総合図書館ホームページ等を利用し、広報に努めるように考えております。

校区別の1人あたりの個人貸出利用率の地図を見ていただきたいと思います。5箇所を丸で囲っておりますが、利用率が非常に低い地域で、図書館としては、まず優先的に考えていかなければならない所と考えております。その場合、やはり公民館が地域の中心で、地域の方は場所も良く知ってあると思いますので、今後、公民館を所管しております市民局と協議を進めていきたいと考えております。

(委員)

4か月検診時に絵本を配布してある「ブックスタート事業」は、平成21年度に実施された、子どもの読書活動に関する意識調査において、生後10か月以前から読み聞かせをはじめたと回答した割合が83.3%と5年前の58.2%から大幅に伸びています。また、ブックスタートで絵本をもらったきっかけをはじめたと回答された方が34.6%を占めるなど、絵本をとおした親子のふれあいが推進されていると思います。

このブックスタートの延長で、自分で読み聞かせをしようと思った時、私を含め一般のお母さん達は何を読んであげたら良いかわからない。そんな時、総合図書館で出されている「モデル児童図書目録」は大変、助かったのですが、本の名前があいいうえお順になっていて、何才ぐらい用なのかわかりにくかったので、年齢別で編集したり、読んだ日や感想を書けるようにすれば、そのまま読書日記みたいに利用できると思います。

また、アンケートの中にどこに図書館があるかわからないという方もおられたので、その冊子の一番最後に、福岡市の図書館の地図等を入れて紹介されたら良いと思います。

(委員)

福岡市総合図書館、福岡おはなし会、子どもと絵本の会で「モデル児童図書目録」として、幼児、初級、中級、上級の4冊を編集・発行しています。

ブックスタート事業で次に読む絵本のことですが、絵本と一緒にこども未来局と総合図書館が作った「絵本ふれあいタイム」のチラシを同封して、赤ちゃんがはじめて出会う絵本やいっしょに楽しむ絵本を紹介しています。

また、福岡市の図書館の所在がわかる地図、裏面に総合図書館や各分館で行われている「おはなし会」がわかるようにしたチラシも同封してあります。

(図書館)

福岡市子ども読書活動推進計画(第2次)において、ブックスタート事業に続く事業として、教育委員会の生涯学習課で、今後4年かけて市内の各公民館に子どもの絵本100冊を配布するように計画しております。図書館としても生涯学習課と連携を密にして支援してまいりたいと考えております。

(委員)

親子で本を楽しめる催しとして「子ども読書フォーラム」が、昨年はいれふで、一昨年は総合図書館で開催され、文庫や小・中学校の図書活動を紹介をしているが、小・中学生の参加者が少なく残念に思っています。

(図書館)

昨年の11月に「子ども読書フォーラム」が開催されておりますが、生涯学習課では、年度当初から計画を進め、いろいろな媒体を利用して広報をしておりますし、会場もそう不便な所ではないと思いますが、小・中学生の参加者は少ない。

広報等について、生涯学習課に伝えてまいりたいと考えております。

(会長)

せっかく開催して小学生や中学生の参加が少ないとの話ですが、会場を市内のどこか1箇所限定したら、小学生などは校区外に子どもだけで出ることが出来ないし、交通費の問題がある。どうしても参加者は少なくなるので、各区での開催にし、イベントに行けない人が、ユーチューブやスマートフォンを利用して見るような仕掛けも将来的には考えてほしい。

(図書館)

交通費の問題等をはじめ、そのようなご意見が以前から多く出ており、なるべく子ども達が参加しやすいように地域に広げていくために、新計画の中ではミニフォーラ

ムということで、いくつかの区に分けて計画するようになると思います。

(委員)

読み聞かせを男の人がすると、子ども達は大変喜びます。今までは本と関係がなかった若い男の人も自分に子どもが出来たら、子どもが本好きになるようにと興味を持つ。そんな人達を少しずつ取り込んで、広げていくことが必要ではないかと思います。

(会長)

予算が厳しいなかで、今後の図書館運営は、いかにボランティアの人達に協力してもらうか。光熱水費などはどうしようもないと思うが、植木の剪定や清掃などはボランティアの人達の力を借りるとか、ハイテク産業を退職した人達の技術力を活かすとか、積極的にボランティアの人達に協力してもらい、少しでも予算を浮かして、その分を図書購入費に回すことなども考えないといけない。

(委員)

バックヤードツアーを開催し、図書館の施設や現状を説明し、このようなボランティアを募集していることを話せば、ボランティアを希望される方もあるのではないかと思います。

(会長)

バックヤードや図書館が開催している行事などを、ホームページを利用して動画で観てもらうことなども簡単に出来るような時代になっている。ぜひ、そのような広報も検討してもらいたい。

(図書館)

ホームページについては、使いづらい面がありますので、先ほど提案されたことも含めて、来年度にプロジェクトチームを組んで改善して行きたいと考えております。

(委員)

子ども向けのバックヤードツアーなどは実施されているのですか。

(図書館)

社会科学で等で図書館に来館された場合は、見学時間に余裕がある時は閉架書庫等、普段は見る事が出来ない所を見てもらっています。また、夏休みを利用して「図書館の達人講座」を開催し、調べ学習の方法や利用に関する基本的な知識を習得してもらう講座を行っております。講座修了後、希望者にはバックヤードの見学を実施しております。

参加者ですが、1講座30名で募集し、2回開催いたしました。定員を超える申込はありませんでした。

(委員)

教師や親が本を読めば、生徒も本を読むようになります。私の学校にもボランティアで15名の方に来てもらっていますが、生徒にどんな本を読んでもらいたいか、県が主催される講座などに自主的に参加され勉強されています。夏休みなどを利用して、教師の研修とか出前講座などを考えていただきたい。

(図書館)

学校図書館との連携については、現在不足していると思っております。県立図書館も、今後、学校図書館の支援に力を入れていくと聞いております。図書館はイメージ的には支援センターみたいに考えておりますが、学校図書館として、こういった支援を、ぜひ図書館あるいは教育委員会にお願いしたいということがあれば、いろいろと提案をしていただきたいと思っております。

(委員)

小学校の図書室利用については、週に1回必ず図書室を利用する時間があり、調べ物学習も導入されたので、図書館は楽しい所、便利な所ということを理解させたら、大人になっても図書館を利用すると思います。

この前の全国研究集会で、全国的に学校司書を増やす話もあっておりましたが、そのようになっていけば良いと思っております。

(図書館)

3月議会の分科会でも、議員さんから学校司書の問題は指摘されておりましたし、現状のままで良いとは思っておりませんので、今後、徐々に改善されていくと思えます。

また、市役所には議会図書館、学校の先生の場合は教育センターがありますが、その連携を図り、市役所の職員や学校の先生が仕事で必要とされる資料を届けて利用してもらうようなことを考えています。

さらに、学校だけを対象とした団体貸出制度のようなものを作り、学校を支援できないか、そのようなことも検討していきたいと考えております。

(委員)

広報についてですが、役所の人と話を進めるなかで、やはり民間とは違う壁があるような気がします。もっと風通しを良くして、効果的な広報が出来ればと思えます。

(図書館)

役所もいろんな面で変わって来ていると思います。今までの慣例にとらわれなくて、新たな発想で進めていくことも大事だと考えています。

(委員)

図書資料の保管、保存については、どのようにしてあるのか。

(図書館)

総合図書館で所蔵している資料につきましては、原則的に必ず1冊を保存するようにはしておりますが、書庫の温度や湿度までの管理はできておりません。

将来的には書庫のスペースの問題等もあり、国立国会図書館の資料の電子化等の動向や、図書館間の分担状況を考慮しながら、保存のあり方について検討する必要があると考えております。

(委員)

今後、図書館が重点をおくべき点は、地域に根ざした郷土の資料をいかに収集し、次の世代のためにその資料が傷まないように保存していくかだと思っております。

(図書館)

郷土資料の活用ですが、コピーを取ることで資料が傷むため、複製本により対応したいと考えております。

また、同じ本を何冊か所有している資料で、利用者の方から貸出を希望されている本もありますので、貸出できる資料、館内に置いて閲覧する資料、複製本により対応する資料などの住み分けを検討してまいりたいと思っております。

(委員)

新聞の保存はどのようにされているのか。

(図書館)

新聞に使われる紙は質が良いのではなく、閲覧と経年による傷みが発生しやすいものです。西日本新聞は、前身の福岡日日新聞九州日報等の明治期のものから、またフクニチ新聞はマイクロフィルムで保管しております。

また、福岡県立図書館が中心になって、新聞の保管担当館を決めておりますが、福岡市の場合は毎日新聞ですので、これもマイクロフィルム化して保管庫で管理しております。

(会 長)

新聞の地方版部分についての保存はどのようにされているのか。

(図書館)

毎日新聞の地方版については、毎日新聞と代理店契約をしている委託業者があり、そこから西部地方版としてマイクロフィルム化されたものを購入しています。

また、朝日新聞の場合は、聞蔵(キヅリ)というオンラインデータベースされたものを購入しており、各地方版まで見ることができますし、日本経済新聞も同様の対応をしています。

(委 員)

アンケートで高校生は、公共図書館を勉強する場所として利用し、閲覧席を占有したり、友達との話声で他の利用者に迷惑をかけていることが書かれてありましたが、多くの高校生や大学生は、公共図書館の利用をしていない。

今後、それぞれの図書館が特色をもって魅力のある所が変わっていけばと思います。

(図書館)

中学、高校、大学生を対象としたヤングアダルトコーナーの充実等を分館を含め図っておりますが、資料を置いているだけで、若い人の利用には結びついていない。各館の特色や広報により変えていくべきだと考えております。

(会 長)

図書館側から委員に、何か聞かれないことがありますか。

(図書館)

電子書籍がよく話題になっておりますが、まだ、アンケート調査では図書館への要望等はありませんでしたが、委員の皆様はどのような意見をお持ちですか。

(会 長)

まだコンテンツの量が少ない。権利関係や費用の整理も付いていない。個人的には各図書館が個別に対応するのではなく、日本図書館協会が窓口になり、全国の図書館が足並みを揃えた方が良いと思います。

また、国立国会図書館が電子化を進めていますが、公共図書館にはどのような発進の仕方になり、どのような利用ができるのか。そういったこともこれから徐々に整理されていくと思います。

(図書館)

まず、電子書籍を導入しても紙の本はいらないということにはならないので、別途予算が必要になるという財政的な問題があります。

予算の問題は別にしても、課題として電子書籍にはさまざまなデータ形式があり、それに対応する端末も多種多様にわたり統一されておりません。著作権の問題を解決するためのDRM(デジタル著作権管理)をどうするかという問題もあります。

また、事業者が電子書籍事業から撤退、あるいはサービスの提供を停止した際に購入したコンテンツが利用可能なのは担保されていない状態です。

こういった多くの問題があり、現在は情報収集に務めています。

(図書館)

映像資料の現状ですが、VHSの時代に価値の高い映画等の資料を収集しましたが、その後メディアがDVDに変わり、公共図書館が貸出や上映を目的に購入する費用は、家庭で3千円で購入できるものが、1万円から2万円と高額になりますので、現在は予算化しておりません。

市内のレンタル店で、安く借りることが出来る時に、CDやDVDの貸出については、貸出を維持していくべきか、廃止を含め縮小を考えるべきか、委員の皆様はどのような意見をお持ちですか。

(委員)

前回の私の意見は、今ゴミとして捨てられているVHS映画のなかに、大変、貴重なものがあります。それについて、収集・保存する道筋ができないかと思っている。

(図書館)

映像資料として、VHSやDVDを収集・保存する必要があると判断した場合は、正式なルールにのっとって購入し、公開を考えなければならないと思います。

(会長)

市内の安いレンタル店が、今はあるが、いつなくなるかわからない。図書館としては長いスパンで、貴重な映像資料の収集・保存を考えていただきたい。

(図書館)

次回は5月に、今日までの意見とアンケートの結果等をまとめ、懇話会としての意見の集約(素案)を検討していただきたいと思います。